

建設機械施工技能実習評価試験（上級）

積込み作業（ホイールローダ）の実技試験で注意すること

I. 実技試験の運転時間と試験コース

1. 実技試験の運転時間

(1) 運転時間

エンジン始動から一連の作業を行い降車するまでの基準とする時間で、表のとおりとなっている。

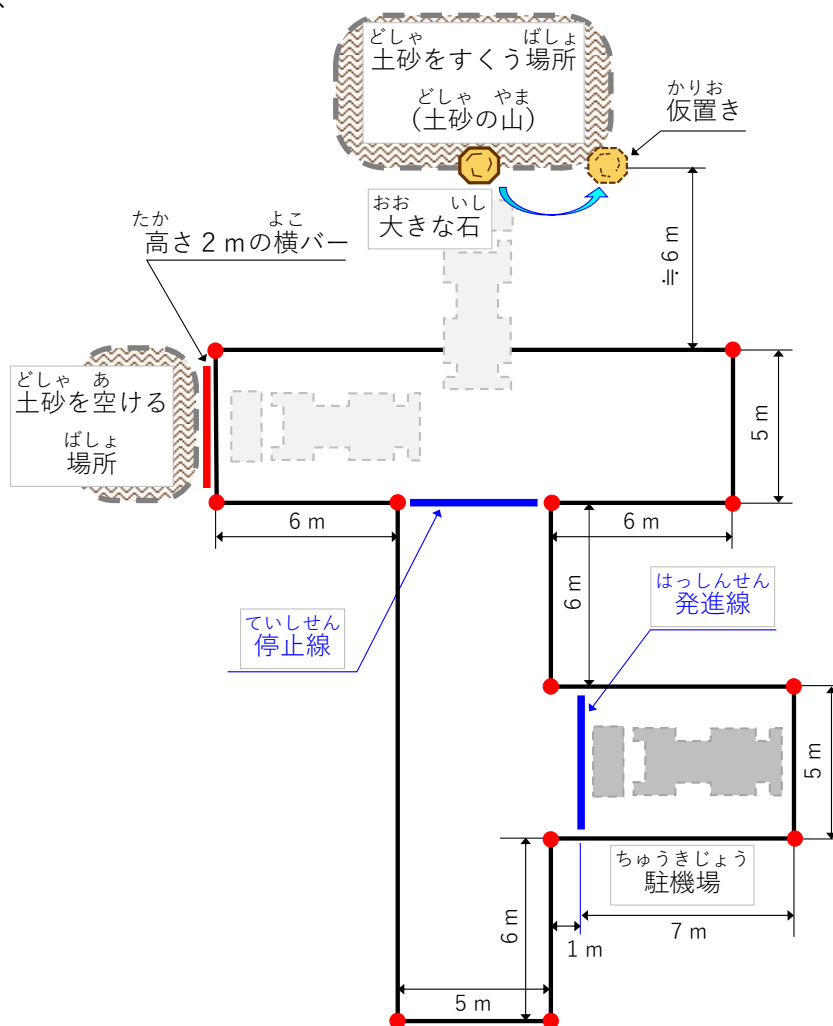
| うんてんじかん 運転時間 | せいげんじかん 制限時間 |
|-----------------|-----------------|
| ふん 5.0分～6.0分 | ふん 14分 |

(2) 制限時間

制限時間は、超えてはならない運転時間で、表のとおりとなっている。

制限時間を超えると試験を中止する場合があることに注意すること。

2. 試験コース



II. 実技試験で注意すること

1. 試験開始時および終了時の機械の状態

- (1) 機械は駐機スペースの中央に駐機。 駐機姿勢は添付写真のとおりとなっている。



写真-1 ホイールローダの駐機姿勢

- (2) バケットは接地。
 (3) タイヤに輪止め。
 (4) 各部の状態は次のとおり。
 (a) エンジンは停止。
 (b) 駐車ブレーキは効き、作業装置はロック状態。
 (c) 操作レバーは中立（ニュートラル）の位置。

2. 試験開始

エンジンキーを受け取り、試験監督員の指示により試験を開始すること。

3. 駐機場にて

(1) 乗車前の点検

駐機場において、機械の外観の点検、冷却水、油の漏れ、等の目視点検を行うこと。

ただし、当日の試験監督員の指示があった場合は、そちらを優先すること。

(2) 乗車

機械の外観などの点検終了後、タイヤの輪止めを解除すること。

乗車前に周辺の安全確認を実施し、3点支持で乗車すること。

※ 安全確認は、4方向（前・後・左・右）を指差呼称で行うことを基本とすること。

※ 安全確認すべき場所の指差し方向についても厳格に行うこと。

※ 安全確認を行うタイミングは、その機械が動き始める直前であり、安全確認と動き始めのタイムラグを大きくしないこと。

※ 以降、安全確認はすべてこれに準ずること。

乗車後、シートの位置調整をし、シートベルトを装着すること。

(3) エンジンの始動

(a) エンジン始動前確認

駐車ブレーキが効いていること、作業装置がロック状態になっていること、走行レバーと作業装置レバーが中立になっていることを確認し、エンジンを始動すること。

※ エンジン始動から運転時間の計測開始となる。

(b) エンジン始動後確認

エンジン始動後、モニタ画面で機械が正常な状態であることを確認すること。

(4) 作業装置の動作確認

作業装置のロックを解除し、周囲の安全を確認して、作業装置の動作確認を行うこと。
動作確認は、アームおよびバケットを一つずつ微操作で行うこと。

(5) 発進

(a) 発進準備

バケットを最後傾し 40cm 程度地面から上げた走行姿勢にすること。
走行姿勢は添付写真のとおりとなっている。



写真-2 ホイールローダの走行姿勢

(b) 発進前安全確認

走行する前には、必ず周囲の安全確認を行い、発進すること。

(c) 発進線での一旦停止

駐機場の発進線では必ず一旦停止し、再度安全確認後、再発進すること。

4. 作業場所への走行

走行姿勢のまま停止線まで進んで停止、安全確認後、作業場内に入ること。

5. 積込み作業

※ **積込み作業は2回行うこと。**

(1) 大魁（大きな石）の移動

土砂のすくい込み・積込み作業を行う前に、土砂の山の前に置かれた大きな石を、土砂のすくい込みの支障とならない位置に移動（仮置き）すること。

石をすくい込むときは、できるだけ土砂が入らないようにすること。

石を置いたら、次の土砂のすくい込みに必要な距離だけ後進すること。

前後進の前は、安全確認を行うこと。

(2) 土砂のすくい込み

土砂の山に正対し、バケットを下げて、土砂をすくい込む姿勢にすること。

土砂のすくい込みは、機械を真っすぐにして、土砂の山に直角に突込むこと。

土砂のすくい込みでは、バケット内を土砂で満杯にすること。

土砂のすくい込み後、バケットを地表より 40cm 程度の高さ（走行姿勢）にすること。

(3) 土砂の運搬

安全確認後、後進すること。後進する距離は、土砂を空ける場所の方向に機械を向けることができる最短の距離にすること。

安全確認後、土砂を空ける場所へ前進すること。

(4) 積込み（土砂を空ける場所での排土）

土砂を空ける場所の直前で停止し、土砂をこぼさないようにバケットを高さ 2m の横バー以上に上げること。

※ **土砂を空ける場所での停車の際、横バーの方向へのバケットのはみ出しは、横バー（積込み対象ダンプトラック）との接触と見なされることに注意すること。**

バケットを上げ終わったら、バケットが横バーを越えるまで前進して停止し、排土すること。

排土後、バケットを起こし、横バーを越えるまで後進して停止すること。

停止後、バケットを地表 40cm 程度まで下げて走行姿勢にすること。

(5) 後進

安全確認後、2 回目のすくい込みを行うため、土砂の山に正対するように左後方へ後進すること。

土砂の山に正対する位置で停止し、2 回目の積込み作業に入ること。

(6) 2 回目の積込み作業

(2)～(4)を繰り返すこと。

(7) 大魁（大きな石）の戻し

2 回目の積込み後（(4)の後）、土砂の山の横に移動（仮置き）した大きな石を戻すため、仮置きした石に向くように左後方へ後進すること。

石を戻す位置は、次の土砂すくい込み作業の支障となる位置にすること。

前後進の前は、安全確認を行うこと。

6. 駐機場への走行

(1) 石を戻したあと、停止線を前進で越えられる位置まで後退し、停止すること。

(2) 安全確認後、停止線まで機械を進めて、一旦停止すること。

(3) 安全確認後、駐機場方向へ移動すること。

(4) 駐機場を通り過ぎ、後進で駐機場に入れられる位置まで機械を進めて停止すること。

7. 駐機場入れ

(1) 安全確認後、後進で発進線（駐機場入口）まで機械を進めて、一旦停止すること。

(2) 安全確認後、機械を駐機場内に入れること。

(3) 駐機場の中央で停止、走行レバーを中立にし、バケット底面を水平にして接地すること。

駐車ブレーキを効き状態にし、作業装置をロック状態にすること。

- (4) しばらくアイドリング状態にしたあと、エンジンを停止すること。
- (5) エンジンキーを抜き取り、運転席を立って、安全確認後、3点支持で機械から降りること。
- (6) 受検者の両足が地面に着地した時点で運転時間の計測終了となる。
- (7) 降車後、直ちにタイヤに輪止めをかけること。

8. 試験終了の合図

エンジンキーを試験監督員に渡すこと。